

# メディカル・プロフェッショナルリズム I

科目責任者 種 市 洋  
学年・学期 1 学年・通年

## I. 前 文

メディカル・プロフェッショナルリズムとは、「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていくこと」とされています。すなわち、医師には社会から信頼され、思いやりを持って他者に接する態度などの医師に相応しい資質や能力が求められており、プロフェッショナルリズムはその最上位として医学教育モデル・コア・カリキュラムにも挙げられています。そのため、本学は6年一貫の「メディカル・プロフェッショナルリズム (D-Mep)」を令和5年度に開設しました。順次性を持って計画されたD-Mepでは、単位認定要件として「良き医師となるには」というレポート課題を各学年での単元終了後に提出し、医療に対する考え方の軌跡を履修者が振り返えることも目的としています。

1年次のD-Mep Iは、このプロフェッショナルリズム教育プログラムのスタートとなる基盤教育に位置づけられます。プロフェッショナルリズムの基盤には「臨床能力 (医学知識・医療技術)」、「コミュニケーションスキル」、「倫理的・法的理解」の3つがあります。D-Mep Iではこのうち、「コミュニケーションスキル」と「倫理的・法的理解」を涵養するため、入門編として「コミュニケーション」「医療倫理学」「行動科学 (医療人類学を含む)」「法学」の基礎を修得します。一見、医学とは無関係に思えるかもしれませんが、これらの学修成果はD-Mep II～VIだけでなく上位学年の様々な科目での学修にとけこみながら、医師としての思考や態度、技能の基盤として力を発揮していくものとなります。そして「D-Mep 概論 I」において自身の将来の姿や「良き医師」としての理想を思い描きながら、この獨協医科大学で医師としての道を究める第一歩を踏み出してください。

## II. 担当教員

### <D-Mep 概論 I >

医学部長／整形外科学	主任教授	種 市 洋
教務部長／病理学	主任教授	矢 澤 卓 也

### <ベーシック・コミュニケーションスキル>

基本医学基盤教育部門 (心理学)	講 師	野 畑 友 恵
------------------	-----	---------

### <医療の倫理学入門>

教育支援センター／研究倫理支援室	講 師	上 杉 奈 々
看護学部・成人看護学 (急性期)	教 授	小 西 敏 子

### <行動科学入門>

基本医学基盤教育部門 (心理学)	講 師	野 畑 友 恵
国際交流支援室	講 師	松 岡 佐 知

### <法学入門>

教育支援センター／研究倫理支援室	講 師	上 杉 奈 々
心臓・血管外科	教 授	柴 崎 郁 子

### <コーディネーター>

教育支援センター／研究倫理支援室	講 師	上 杉 奈 々
------------------	-----	---------

### Ⅲ. 一般学習目標

- (1) プロフェッショナルリズムの視点から、医学生に求められる態度について学ぶ。
- (2) コミュニケーションの視点から、人としての信頼や思いやりを形成する行動の基礎について学ぶ。
- (3) 行動科学・心理学の視点から、人の行動と心理の基礎について学ぶ。
- (4) 医療人類学の視点から、社会や生活の文脈から医療を考える社会科学の手法について学ぶ。
- (5) 倫理学の視点から、医の倫理・生命倫理・研究の倫理の基礎、人の尊厳について学ぶ。
- (6) 法学の観点から、人の尊厳と権利、社会における医師の責務や医療の役割について学ぶ。

### Ⅳ. 学修の到達目標

- (1) 社会から信頼を得る上で必要なことを常に考え行動することができる。
- (2) 品格と礼儀をもって、他者を適切に理解し、思いやりをもって接することができる。
- (3) 他者のプライバシー、苦痛等に配慮し、非言語コミュニケーションを含めた適切なコミュニケーションスキルにより良好な人間関係を築くことができる。
- (4) 医療における倫理の重要性を理解し、多様な価値を理解した上で自身の見解を形成し述べることができる。
- (5) 法令遵守ならびに人権を尊重し、医学生として正しく行動することができる。
- (6) 情報科学技術を取り扱う際に必要な倫理観・デジタルプロフェッショナルリズム及び基本的原則を理解することができる。

※ 各基盤科目の詳細な学修到達目標は「シラバス別冊」を参照のこと。

### Ⅴ. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）  
 2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
 6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング	
1	4	16	火	1	D-Mep概論 I ① メディカル・プロフェッショナルリズムとは〔1〕	種 市 洋	1	
2		16	火	2	D-Mep概論 I ② メディカル・プロフェッショナルリズムとは〔2〕	矢 澤 卓 也	1	
3		16	火	3	ベーシック・コミュニケーションスキル①② コミュニケーションの基礎	野 畑 友 恵	1, 3	
4		16	火	4				
5		30	火	1	ベーシック・コミュニケーションスキル③④ 自己の理解と他者の理解		1, 3	
6		30	火	2				
7	5	7	火	1	ベーシック・コミュニケーションスキル⑤⑥ 意思を探るプロセス		1, 3	
8		7	火	2				
9		14	火	1	ベーシック・コミュニケーションスキル⑦⑧ ストレスに対するセルフマネジメント		1, 3	
10		14	火	2				
11		21	火	1	ベーシック・コミュニケーションスキル⑨ まとめ		1, 3	
12		21	火	2	行動科学入門？①（医療人類学） なぜ「困難患者」が現れるのか？		松 岡 佐 知	1, 2

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
13	5	28	火	1	医療の倫理学入門①②（生命倫理） 倫理を学ぶ意味／人の「生」に関わる生命倫理	上 杉 奈 々	1, 2
14		28	火	2			
15	6	4	火	1	医療の倫理学入門③④（生命倫理） 人の「死」に関わる生命倫理	小 西 敏 子 上 杉 奈 々	1, 2
16		4	火	2			
17		11	火	1	医療の倫理学入門⑤⑥（科学／研究倫理） なぜレポートの不正はダメなの？		1, 2
18		11	火	2			
19		18	火	1	医療の倫理学入門⑦⑧（医の倫理／デジタルプロフェッショ ナリズム） なぜ守秘義務が必要なの？	上 杉 奈 々	1, 2
20		18	火	2			
21		21	金	1	医療の倫理学入門⑨ まとめと試験		6：確認試験と フィードバック
22	7	12	金	1	行動科学入門② 認知と人の理解	野 畑 友 恵	1
23	8	23	金	1	行動科学入門③ 学習（1）オペラント条件づけと認知行動療法		1
24		30	金	1	行動科学入門④ 学習（2）レスポナント条件づけと認知行動療法		1
25	9	6	金	1	行動科学入門⑤ 発達（1）認知発達と病気の理解		1
26		13	金	1	行動科学入門⑥ 発達（2）家族のライフサイクル		1
27		20	金	1	行動科学入門⑦ 発達（3）死別と悲嘆反応		1
28		27	金	1	行動科学入門⑧ 発達（4）子と親の発達		1
29	10	16	水	1	行動科学入門⑨ 認知と意思決定（1）		1
30		16	水	2	行動科学入門⑩ 認知と意思決定（2）		1
31		23	水	1	法学入門① 法とは何か？法学を学ぶ意味		上 杉 奈 々
32		23	水	2	法学入門② 社会における医師と医療	1	
33		30	水	1	法学入門③ 個人情報の取扱いと法	1	
34		30	水	2	法学入門④ 患者－医師関係と法	1	
35	11	6	水	1	法学入門⑤ 患者の権利と法、インフォームド・コンセント	1	
36		8	金	5	法学入門⑥ 女共同参画とワーク・ライフ・バランス	柴 崎 郁 子	1
37		13	水	1	法学入門⑦ ※ 看護学部1年生と合同講義 薬害と人権（ゲスト講義）	上 杉 奈 々	3
38		13	水	2	法学入門⑧ 医療事故と法・患者安全（ゲスト講義）		3
39		20	水	1	法学入門⑨ まとめと試験		6：確認試験と フィードバック

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
40	11	27	水	1	D-Mep概論I③ 良き医師となるには：総括と次年度の目標設定	種 市 洋	2

【Bクラス】※ 第3回（4/16火：3限）～ 第21回（6/21金：1限）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
3	4	16	火	3	医療の倫理学入門①②（生命倫理） 倫理を学ぶ意味／人の「生」に関わる生命倫理	上 杉 奈 々	1, 2
4		16	火	4			
5		30	火	1	医療の倫理学入門③④（生命倫理） 人の「死」に関わる生命倫理	小 西 敏 子 上 杉 奈 々	1, 2
6		30	火	2			
7	5	7	火	1	医療の倫理学入門⑤⑥（科学／研究倫理） なぜレポートの不正はダメなの？	上 杉 奈 々	1, 2
8		7	火	2			
9		14	火	1	医療の倫理学入門⑦⑧（医の倫理／デジタルプロフェッショナルリズム） なぜ守秘義務が必要なの？	上 杉 奈 々	1, 2
10		14	火	2			
11		21	火	1	医療の倫理学入門⑨ まとめと試験		6：確認試験と フィードバック
12		21	火	2	行動科学入門①（医療人類学） なぜ「困難患者」が現れるのか？	松 岡 佐 知	1, 2
13		28	火	1	ベーシック・コミュニケーションスキル①② コミュニケーションの基礎	野 畑 友 恵	1, 3
14		28	火	2			
15	6	4	火	1	ベーシック・コミュニケーションスキル③④ 自己の理解と他者の理解	野 畑 友 恵	1, 3
16		4	火	2			
17		11	火	1	ベーシック・コミュニケーションスキル⑤⑥ 意思を探るプロセス	野 畑 友 恵	1, 3
18		11	火	2			
19		18	火	1	ベーシック・コミュニケーションスキル⑦⑧ ストレスに対するセルフマネジメント	野 畑 友 恵	1, 3
20		18	火	2			
21		21	金	1	ベーシック・コミュニケーションスキル⑨ まとめ	野 畑 友 恵	1, 3

## VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

### 【単位認定要件】

第40回（最終回：D-Mep概論I③）にて課す「良き医師となるには」のレポートの提出をもって、D-MepIの単位認定要件とする。このレポートでは、この段階で自分自身が考える医師像とそれを達成するために必要な2年次に向けた自己の目標を設定し、e-ポートフォリオに記録するものとする。

### 【成績評価】

基盤科目である「ベーシック・コミュニケーションスキル」「医療の倫理学入門」「行動科学入門」「法学入門」の平

均点を素点（小数点以下は切り捨て）とし、60点以上を合格とする。なお、各基盤科目において2/3以上の出席がない場合は、当該科目の成績については評価対象としない。

この4つの基盤科目におけるそれぞれの具体的な評価方法の詳細は、各講義の第1回目に担当教員より説明するとともにLMSにて提示する。

#### 【特筆すべきアンプロフェッショナルな態度への対応】

D-Mepにおいて「特筆すべきアンプロフェッショナルな態度」とは、以下の5点をいう。

いずれかに該当する場合は、減点 または 単位認定を保留 とする。

- 1) 講義・演習への無断遅刻  
(一切認めない。10分以上の無断遅刻は無断欠席とみなす。)
- 2) 講義・演習への無断欠席  
(一切認めない。)
- 3) 講義・演習に臨む姿勢が 極端に消極的 又は 医師を目指す者として不適切 と認められる場合
- 4) 「まとめと試験」等成績評価にかかる考査実施における不正行為  
(本学医学部試験及び成績評価に関する規程を準用する)
- 5) レポートにおける剽窃（盗用）行為（同上）

### VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は特に指定しない。

参考図書・参考文献については、以下のほか、講義時に適宜紹介する。

#### 【D-Mep 概論 I】

大生 定義「プロフェッショナリズム総論」, 京府医大誌 120 (6), pp395-402, 2011

#### 【ベーシック・コミュニケーションスキル】

水國照充ら「楽しく学んで実践できる対人コミュニケーションの心理学」(北樹出版・2018)

阪口幸駿ら「「合う」のメカニズムを科学する：影響し合う「あなた」と「わたし」の心理学」(ミネルヴァ書房・2023)

#### 【行動科学入門】

中島定彦「学習と言語の心理学」(昭和堂・2020)

坂上裕子ら「問いからはじめる発達心理学—生涯にわたる育ちの科学」(有斐閣・2014)

大竹文雄ら「医療現場の行動経済学：すれ違う医者と患者」(東洋経済新報社・2018)

大竹文雄ら「実践 医療現場の行動経済学：すれ違いの解消法」(東洋経済新報社・2022)

#### 【医療の倫理学入門】

赤林 朗 編「入門・医療倫理 I [改訂版]」(勁草書房・2017)

#### 【法学入門】

手嶋 豊「医事法入門 [第6版]」(有斐閣・2022)

### VIII. 質問への対応方法

各基盤科目の講義担当教員の研究室に来室する際は、平日の9:00-17:00を基本とし、事前にメール等でアポイントメントを取ることが望ましい。

質問への対応の詳細及び教員のメールアドレスは、講義時に別途示す。

#### ■ D-Mep I 全体を通しての質問・連絡・相談など

→ 上杉 奈々 (教育支援センター／研究倫理支援室)

#### ■ 【ベーシック・コミュニケーションスキル】・【行動科学入門②～⑩】

→ 野畑 友恵 (基本医学基盤教育部門・心理学)

#### ■ 【行動科学入門① (医療人類学)】

→ 松岡 佐知（国際交流支援室）

■【医療の倫理学入門】・【法学入門】・【D-Mep 概論 I】

→ 上杉 奈々（教育支援センター／研究倫理支援室）

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP    ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医 学 知 識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨 床 能 力	卒業臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能 動 的 学 修 能 力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各基盤科目のフィードバックの方法については、講義時に担当教員より説明する。

単位認定要件となる「良き医師となるには」のレポート課題については、学生自身の学修と成長の記録としてe-ポートフォリオに記録するので、卒業時まで各自で活用されたい。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

各基盤科目の事前学修・事後学修については、各担当教員により説明する。

詳細は、「シラバス別冊」を参照のこと。

XII. コアカリ記号・番号

PR-01-01-01, PR-01-01-02, PR-01-02-01, PR-01-02-02,

PR-02-01-01, PR-02-01-02, PR-02-02-01, PR-02-02-02, PR-02-03-01, PR-02-03-02  
PR-03-01-01, PR-03-01-02, PR-03-01-03  
PR-04-01-01, PR-04-01-02, PR-04-01-03  
GE-01-02-01, GE-01-03-01, GE-01-03-02, GE-01-05-01, GE-01-05-02, GE-01-05-03  
GE-03-01-01, GE-03-01-02, GE-03-01-03, GE-03-06-01  
GE-04-02-01, GE-04-02-02, GE-04-02-03  
CM-01-01-01, CM-01-01-02, CM-01-01-03, CM-01-01-04, CM-01-01-05  
CM-01-02-01, CM-01-02-02, CM-02-02-01  
CM-02-03-01, CM-02-03-02, CM-02-03-03, CM-02-03-04, CM-03-01-01  
LL-01-01-02, LL-01-02-01, LL-01-02-02  
IT-01-01-02, IT-01-02-01, IT-01-02-02  
RE-01-01-01, RE-02-01-01, RE-05-01-01  
CS-05-03-02, CS-05-05-02  
SO-04-04-01, SO-04-05-01, SO-04-07-01, SO-05-01-01, SO-05-01-02, SO-05-01-06  
SO-06-01-02  
IP-02-04-01

※各科目における詳細は、「シラバス別冊」を参照のこと。